

## 2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 5 日

所属	政策情報学部	職名	准教授	氏名	大久保優也
研究課題	「公共の利益」概念の再検討				
研究キーワード	共和主義、利益多元主義、法社会学、福祉国家、社会的法学、公法・私法論	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	1. 貧困をなくそう	3. すべての人に健康と福祉を	16. 平和と公正をすべての人に	10. 人や国の不平等をなくそう	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>今年度の研究は、日本の法学（主に憲法学、民法学）における「公共の利益」概念について、その歴史的な形成過程を再検討し、その原像を捉えることによって、「公共の利益」のあるべき解釈や、個人的利益を軸にした憲法訴訟、行政訴訟に対して新たな示唆を導き、また、公法と私法のあるべき関係や、国家・社会・個人という三層構造の中で、「公共の利益」のあるべき位置について示唆を導くことを目的とした。具体的には、まず、①日本における「公共の利益」や「社会的利益」の法学的な概念の源流を探り、②アメリカ法学における 19 世紀末から 20 世紀の「公共の利益」、「社会的利益」の概念について、ロスコー・パウンドの学説の内容、影響等について検討した。その結果、19 世紀末から 20 世紀前半にかけて、「個人と社会」という観点から、個人の権利、利益とは異なる、社会的利益の観念の構築が日米の法学において模索されていたこと、特に、アメリカにおいてそれを主導したロスコー・パウンドの影響は日本にも及んでおり、個人的権利ではなく利益の観点から社会的利益の概念の構築を行ったが、パウンドのそれは、コモン・ローの枠内で行われたものであり、その結果、コモン・ロー圏における文化的同質性がかかる社会的利益の承認の前提となっており、その点で限界を抱えていたことを明らかにした。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>「コモン・ローの中の法社会学」、大久保優也、単著、査読有、『法社会学』、89 号、179 頁から 204 頁、2023 年 3 月</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>なし</p> <p>【学会発表等】</p> <p>なし</p>					

### 3. 主な経費

本研究が検討対象とする 19 世紀末から 20 世紀前半の憲法学、行政法学、行政学、法制史、社会学に関する歴史的文献、原典や、関連する先行研究、その他、同時代の社会科学の隣接分野についての関連書籍の購入、文具代金、プリンター関連費用に使用した。

### 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

なし

(本文は2ページ以内にまとめること)